



2026年6月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 6月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <https://www.centergai2.com> E-mail: centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目で KOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★ストリートミュージアム、収蔵式典 第21作目 矢野太昭氏

6月13日（土）に三宮センター街2丁目商店街アートストリートに第21作品目となるガラス作家矢野太昭氏



の“14steps for arena of your life”が収蔵されました。矢野太昭氏は1953年、名古屋市生まれで、1984年に古代ガラス技法によるモザイクガラスの研究および製作を開始され、現在岡山県玉野市の工房で鋭意製作活動に励んでおられます。矢野先生はご挨拶の中で「若い頃、人生の方向性を見いだせない時に、ふと神戸を訪れたくなり、元気を頂いた。神戸とはそれ以来強い繋がりを感じるし、今こうして自分の作品がセンター街2丁目のストリートミュージアムに収蔵されるのは大変嬉しく思います」と述べて



おられました。久元神戸市長からも「2丁目の皆さんがこの様に毎年作品を収蔵されている事は三宮の魅力高め、行政としても大変有難いことだ」とお祝辞の言葉を頂きました。収蔵式には大変多くの市民、神戸市の関係者、そして岡山からも駆けつけて頂き、加えて毎年「夢未来号」に参加されている神戸市の養護施設の子供さん達も除幕に加わって頂き、大変華やかなものとなりました。このアートストリートは「地球の歩き方 神戸市」でも掲載される予定です。来年以降の作品にも注目ですね！

★ドンクさん 新築ビル 地鎮祭

6月5日（金）にドンクさん新築ビル着工に向けて三宮本店の場所で関係者による地鎮祭が行われました。



株式会社ドンクから中土 忠代表取締役 CEOをはじめ、5人の幹部の方々と日清製粉株式会社、カネカ食品株式会社といった企業の方々、そして2丁目商店街振興組合からは久利理事長、大内理事、西尾理事など総勢で20名を超える大変立派な地鎮祭でした。祭壇にはドンクの看板商品のフランスパンのバゲットが陳列され、晴天に恵まれこの日を迎えられました。中土 忠代表取締役はその挨拶の中で、「株式会社ドンクとして商売を始めた“創業の地”で、三宮店は“創業店”として社内でも大切に、思い入れのある店舗であるということ、新しく立て直す

にあたり、より一層地域のお客様にまた来たいと思って頂けるお店づくりを計画・準備していきたいこと、普段より地域や関係業者の皆様を支えて頂いていることへの感謝の意」などが語られました。新店舗の完成は来年の8月になるそうで、これは創業が同じ8月で大変意味深いものになります。素晴らしい新店舗、素晴らしいスタッフ、素晴らしい数々のパンで、また私達の街の魅力的な“アイコン”になって頂けるものと確信しております。



★梶原訪問～隈研吾氏の負ける建築と町の人々の魅力を体験

かねてより神戸と友好関係を結び、隈研吾氏の講演会、久利理事長の「ゆすはら未来大使」就任など、活発な



吉田前町長、高橋町長

交流を継続している高知県梶原町。5月10日、11日の2日間、商店街や「ひと街創り協議会」の皆さんと彼の地を訪問してきました。旅の一番の目的は、久利理事長が所蔵していた須田剋太の絵画「梶原 千枚田」の寄贈でした。吉田前町長の熱烈なご希望もあり、「(絵が) 帰るべきところに戻りたがっている」と久利理事長も感じられたそうです。久利理事長から「地域の子供さん達の目に触れるところに飾ってほしい」との希望を受け、隈研吾氏が

設計された「雲の上の図書館」に展示されることとなりました。訪問2日目には地元の方のガイドで隈研吾氏の建築群を見学。ガイドの方が「雲の上の図書館は隈研吾氏の言われる“負ける建築”の代表だと思います」と聞き、本やインターネットで何度も見ていた「雲の上の図書館」の実物を見て、「まさに！」と驚嘆しました。「背景の山の稜線」と、「図書館の屋根のライン」が美しく調和していました。ぜひ現地でご覧頂きたいと思います。梶原を訪ねて、最も印象的だったのは「町の人々」の振る舞いです。町の人とすれ違うと高校生でも全員が「こんにちは！」と挨拶してくださいます。我々がお世話になったバスの運転手さんが到着後に洗車をしていたら、車椅子に乗った高齢の女性が一生懸命に梶原の魅力を伝えておられました。どの人も優しく、まっすぐで、他所から来た人達に常に親切に接して下さいました。「人の魅力」こそが「町の一番の魅力」だと改めて感じさせられる旅で、心が温かくなりました。



雲の上の図書館

★若杉聖子 大阪高島屋

2019年4月に私達のストリートミュージアムに第14作目として収蔵された若杉聖子先生の作品は「落白花」



でしたが、5月20日から25日迄、全国の高島屋を巡る一環として大阪難波の6F高島屋美術画廊で若杉先生の展示会が開催され、早速拝見させて頂きました。若杉聖子先生は、1977年富山県に生まれ、2000年に近畿大学文芸学部芸術学科卒業後、2003年には多治見市陶磁器意匠研究所を修了されました。鑄込み技法を用いた無釉の白磁は、繊細でシャープな造形と柔らかな質感を生み出し、国内外で高く評価されています。若杉先生の作品はほぼすべてが白の作品で、ご本人の

インタビュー動画では「作品が人の手に渡ると、その方に愛して欲しいという思いが前提になっています。そうすると、どの様な空間にも作品が主張し過ぎず、馴染みやすく、尚且つ埋もれないために白を基調にしている」と語られていました。先生の作品は予め、図面を描くのではなく、ぶっつけ本番で削っておられるそうで、その研ぎ澄まされた感覚が作品を観ていると感じ取れるようでした。今回の展示会を観られなかった方も若杉先生はInstagramもされていますので、是非、その感覚を探してみてください。



★編集後記

高知県梶原町で経験した町の方々との温かい触れ合い、この小さな体験はずっと記憶に残るのではないかと感じています。見知らぬ方と交わす挨拶や笑顔、ほんの一瞬の時間なのに頭の中でずっと生き続けています。

私事で恐縮ですが、何年も前にパリの地下鉄の切符売り場で係りの方との拙いフランス語でのやり取りと、お互いの笑顔での心の触れ合いは昨日の事の様にハッキリ覚えています。心からの笑顔とマニュアルに沿った笑顔が明らかに異なるのは皆様もご経験がおありだと思います。ちなみに前者は「デュシェンヌの微笑み」と呼び、後者は「カスタマー・サービススマイル」と呼ぶのだそうです。神戸に観光・買い物でよく街に来られる方々にも、この本物の笑顔があれば、「神戸っていい街だな」と思ってもらえるのは間違いありません。

美しい街 共に歩む

ビルメンテナンスつるかめ管財株式会社 078-371-3589

